平成 23 年 1 月 1 日現在

臼杵城下町地区

（大分県臼杵市）

- ○ 計　画　期　間　　平成 21 年度～25 年度
- ○ 面　　積　　18.5ha
- ○ 交付対象事業費　　739 百万円
- ○ 市人口　43,303 人（地区内人口 600 人）

ポイント　観光と地域の文化活動の交流をテーマに周辺の景観に配慮した拠点の整備を行う。

地区概要　既存の建造物を活用した拠点施設の整備を行い、良好な景観を有する地区のさらなるネットワークの強化を目指し、地域の賑わいの再生を図る。

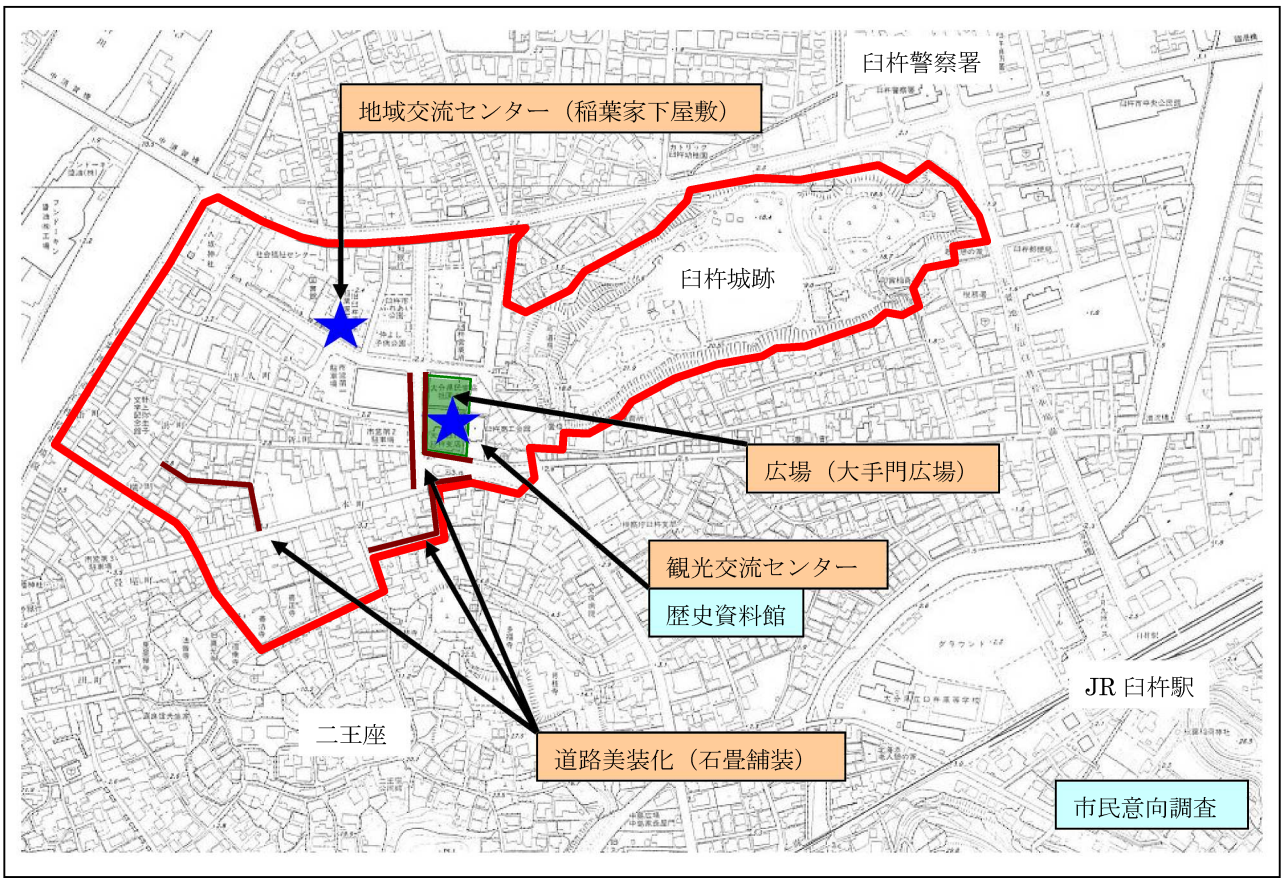
目　　標　臼杵の歴史特性を活かした景観整備により、中心市街地を「人・モノが活発に交流する賑わいの町」へ復活させる。

指　　標　本計画による歴史的景観整備等が観光や市民の文化活動を促進し、中心市街地の活性化にどれだけ貢献できたかをわかりやすくそして的確に確認できる指標を設定した。

観光客数	80,687 人（H19）	→	100,000 人（H25）
駐車場利用	17,157 台（H19）	→	20,100 台（H25）
商店街通行量	1,663 人（H20）	→	1,800 人（H25）

事業内容　基幹事業（603 百万円）→・地域生活基盤施設（広場整備 3,400m2）・高質空間形成施設（道路美装化６路線 489m）・既存建造物活用（高次都市施設：地域交流センター3,100m2、観光交流センター614m2）

提案事業（136 百万円）→・地域創造支援事業（歴史資料館 327m2）・事業活用調査（市民意向調査）



地区の現況と課題

多くのおちついた雰囲気と、戦国時代末期からほとんど姿を変えずに残るまちなみを有するこの地区では、道路の美装化や電線類の地中化、あるいは家屋の修景補助等のまちづくりに取り組み、まちづくり交付金事業の１期事業では、「臼杵城再生」をテーマにまちなみの一体化に力を入れてきたところである。しかしながらその最大の特徴である入り組んだ町割りをわかりやすく案内できる拠点となる施設が不足しており、個人的に訪れる観光客の方に対してはわかりづらいものになっている。また、観光面と地域生活の交流空間の不足により、中心市街地の活性化にうまくつながっていない。

基幹事業の特徴

地域生活基盤施設（大手門広場整備事業）

市街地の中心部に位置する部分を市有化し、周辺の景観との連続性とゆとり空間を演出する。

高質空間形成施設（市道道路美装化事業）

石畳舗装の整備により整備済み部分と併せた散策エリアの拡大とまちなみのさらなる一体化を目指す。

高次都市施設－１（地域交流センター整備事業）

歴史的に価値の高い建造物（稲葉家下屋敷）を活用し、これまで観光面のみの利用であったものを地域の文化・交流活動にも利用できるように整備し、日常レベルでの広い開放を目指す。

高次都市施設－２（観光交流センター整備事業）

大手門広場の整備を併せ既存の企業ビルを活用し、周辺の景観に配慮した整備により観光の拠点として再生させる。

提案事業の特徴

地域創造支援事業（歴史資料館整備事業）

観光交流センターと複合して、観光に訪れた方が情報を手に入れるのと同時にその場で臼杵の歴史・文化に触れられるような拠点を整備する。

事業活用調査（市民意向調査）

交付金事業の目標値の達成状況をチェックし、事業の成果を評価する。

計画策定プロセス

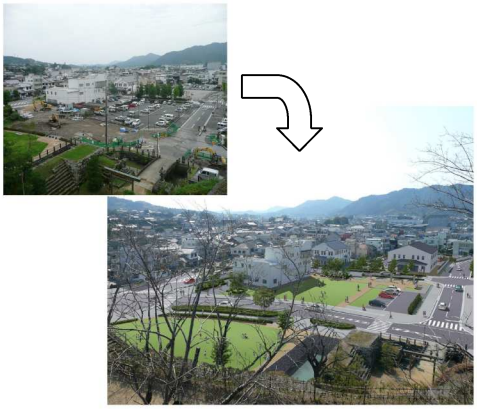
臼杵市のまちづくりの伝統

臼杵市では昭和 58 年頃から市民のまちづくりに対する意識が高まり、当時から市民レベルでの活動による意見や要望が諸計画の基礎となっている。このまちづくり交付金事業についても同様で、主に「中心市街地活性化基本計画」に位置付けられた事業を展開しているが、その計画についても各方面からの市民参加により積み重ねられたものである。また第１期計画の事後評価における市民意向調査等による意見・要望も大きく参考になっている。

整備事例の紹介

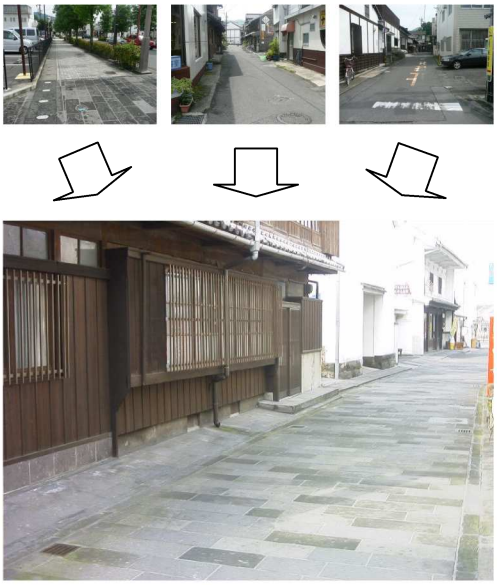
▼大手門広場の整備

市街地の中心部に位置する部分を市有化し、既存ビルを活用した観光拠点施設と歴史資料館、ゆとりある広場を整備。



写真はイメージ

▼道路の美装化（石畳舗装）



写真はイメージ

▼地域交流センターの整備

現存する歴史的建造物（稲葉家下屋敷）を活用し、地域交流センターとして整備する。（写真はイメージ）